

2019/06/01

関係各位

Far East Group
会長 大嶋 謙嗣

造化
～節度と変化～

万物を生成化育させていく力である「造化」のはたらき。これを根源の「一（太極）」とする。

自然の摂理や法則とう造化のはたらきには、人間が望むような意図や理由があるとは限らない。晴れや雨の天気だって、天の気分の良し悪しで決まるものではない。

「ただそう在る」だけ。

古来人間は、自然を通じて造化のはたらきを見出し、それを言葉に置き換えて学び、経験を通して理解し、生活や社会に応用してきた。そこには欲望や望む方向という私たち人間の意志があった…。

今月から、造化の要素を徒然に挙げていくことにする。私たちが望む方向へ生きるために、それら要素を活用すべきであると信じるから。

造化の要素は、陰陽（統一・調和・潜蔵へ向かうもの、分化・発現・進展へ向かうもの）が同時に存在しながら、中（可能性が含まれている状態、対立や矛盾を克服して一段上に進む状態）していく。これらの要素を、私たちが、自ら望む方向へ進むための武器として活用するにはどう捉えればいだろうか？ここで私たちの「造化＝望む方向性」とは、陰陽相俟って「進歩」へ向かうこととする。

物事は、陰陽二つ以上の要素が相俟って変化していく。従って、例えば「節度（締めくくり）」という要素には当然ながら「始まりを持つ」こともセットである。

物事の変化をいかに「進歩」へ向かわせることができるか。そこが私たちの腕の見せ所である。

<造化の顕現＝進歩へ向かうための要素>

●「節度」…辞書には、「行き過ぎることのない適当な程度」と書かれている。ただ、それだけでは不十分である。節とは竹の節（ふし）からきている。竹があれだけ高く伸びるのは、節があるからである。

節度とはケジメである。己の意志を明確にして、一つ一つの物事を、その時その時を処していくことである。100点だろうと30点だろうと、それはただの結果である。結果を踏まえて次へ行く。「100点取るまで。満足するまで。心地いいからいつまでも」等と言っていたらいつまでも先に行けない。それでは成すべきことを為すタイミングを

逸してしまう。

その時その時、もし迷ったら最も大切なことは何かを考える。一つ一つ取り組み、ケジメをつけていく。締めくくりを付ける。そのケジメの付け方が見事であり、また余韻があれば、その先に伸びていきやすい。

「易経」では、事を成していくことを「大川を渡る」という比喻で説く。渡っていくべき川、つまり為すべきことは沢山あるのだ。チャンスは無数にあるわけではない。いつまでも泳いでいたいからと川を渡らずにいると、流され溺れてしまう。男は、志義を持たないと、ただ居心地の良さを求め、そこで溺れてしまいがち。溺れる対象はギャンブル、酒、女が多いのは言わずもがなである。己の道を自覚して、道楽(道を楽しむ)、極道(道を極める)へと歩みたいもの。

節度とは、物事にケジメをつけることであり、締めくくりを持つことである。無駄を省くことであり、次へ繋がる余韻を残すことである。

節度とは、人間が伸びていくための基本である。

●「変化」…変化とは、変じて化していくこと。連続性を持った進歩・成長である。連続性を失わないためには、原点・根源・一を自覚することから。そこから化していく、繋がっていく。変化するためには、まず原点を知ること。まさに「汝自身を知れ」である。

●「繋がり」…造化は陰陽相俟つことでそのはたらきを顕現させる。従って、他と繋がることは造化の必然である。「大学」の三綱領にある「親民(民に親しむにあり)」も他との繋がり大切さを説いたものである。それが、「明明徳(明徳を明らかにするにあり)」と、対象の個性や特性を發揮させることに繋がり、「止於至善(至善に到るにあり)」と、造化のはたらきを顕現して進歩へと自らをすすめることになる。

繋がりについて、今日のネット社会を少し愚考してみる。確かに、ネット社会は SNS 等を通じて人と人とを繋がりやすくした。では、SNS での繋がり、進歩という方向性に合致しているだろうか。そもそも、繋がりというのは造化にとって不可欠な要素である。しかし、当然ながらネットや SNS が普及したからといって、ただそれだけで社会がよくなるわけではない。安易な繋がりや便利さと共に、人間性の愚かな側面を増幅してしまっていることも少なくない。

ネットでは社会は変わらないのでは? と思い始めたのは、東日本大震災以降。特に原発反対のデモを国会前で繰り広げた SEALDs の活動を見てからかもしれない。あの時のデモは SNS を使ったもの。お祭りのように一時的に盛り上がるには SNS は効果的だが、結局のところ、あまり成果が出ることなく終わり忘れ去られる。SEALDs の活動も約二年で終わってしまった。持続可能な面倒な活動には SNS を通じた繋がりには不向きではないだろうか。

この国では同調圧力が高めた。それに SNS が合わさると、様々な人が同じ方向を向いて一時的に盛り上がるお祭りと同じようなものだ。そしてちょっと困ったことに、そ違う意見の人たちをいじめてアカウントを削除させ、また次の獲物を探す・・・というようなことが蔓延る。だから、なかなか議論にならない。原発賛成派と反対派の議論らしきことも SNS に乗ってしまうと、結局、双方理解し合っただけで変化を起さず、罵り合いに終わってしまい、何かを生み出すことはなかった。SNS は、けんか祭りの道具にしかならなかった。

この点においては、ネットは社会を良くするどころか、むしろ幼稚にしている。フェイクニュースやポストトゥルースがいい例だ。今や、情報の真偽を見抜く力が求められるというのではない。嘘か本当かが意味を持つのではなく、自分に都合な情報ならそれでよいとする風潮がある。

ネットでの繋がりの問題は他にもある。「今」の価値を重視しすぎて、その瞬間を素早く拡散・共有してチャホヤされたいという稚心から抜け出せず、時間をかけて繋がりを構築するという価値を軽視しすぎているだろうか。ネット上のコンテンツは、とにかくシェアされるために早く短くなっている。

そもそも、人との繋がりやコミュニケーションには時間がかかるという前提が忘れてはいないか。他人の意見を理解するのに、日本語 140 文字の twitter や数分のパワポでほんとに理解できるのか？その表現では、自分が相手に期待していることを確認するだけに終わらないか。相手の人格が分からなければ、些細な言葉のすれ違いが攻撃対象になることも否定できない。

もし、人格を理解し合うように時間をかけて繋がりを構築していけば、その人がミスしたり間違っただけを言ったりしても、その根底の人格を分かっているから、安易に相手を批判などせずに踏みとどまることができる。そこから対話や理解がより深めることもできる。

ネットや SNS を全否定するわけではない。ただ、「繋がる」という点においては、ネットは、お祭りのように皆でワッと集まって一時的に盛り上がるものに向いているというだけだ。犬猫の動画を紹介しているうちはいいが、人間同士の相互理解には向いていないということも認識しておく必要があると思う。どのような繋がりを期待しているのか、それを間違えてはいけないということだ。ま、短期的な収益を考えれば、刺激的なものを早く素早くという流れは必然なのだろうが。

東洋思想では、繋がりや関係の根本は孝悌である。それは家族から始まる。「孝」とは、「老」と「子」を合わせたもの。つまり、孝の根本とは長幼の連続。その内実は、敬意と慈愛。「悌」とは、同根（親を共通とする）兄弟の心。それは、それぞれの道で大成することを目指し、親しみ合い協力し合うこと。ここから師友、そして学問へと繋がりを伸ばしていく。これが断絶するところから様々な問題が起こる。

節度・変化・繋がり。

望まぬ方向へ流されることのないよう、舵を修正できるよう、これらの力を活かして
いきたい。

さて、今回はこれくらいにして、今月も健康と健闘を！



造化に徹する = 進歩/献身/構築

楽しむ

笑顔

心構え

「敬恥/強気/志義/真ん中/節度」

✖ 稚心

✖ 臆病

✖ 怠惰

✖ 無関心

✖ 極度の負けず嫌い

「温にして厳/威ありて謙/恭にして安」

言葉

真実かどうかは関係ない

• 言う価値があるか？

• 相手の役に立つか？

• 口を挟まない/批判しない

「ありがとう」...感謝

「申し訳ない」...謝罪

「それは素晴らしい」...称賛/余韻

受容/傾聴/共感

ユーモア

敬恥/仁愛

行動

• 「言い訳」を止めて動く

• 今、最も大切なことは？

• 心を定める

報恩

逃げない/忘れる/楽しむ

繋がる/共有する

自分自身の定義に執着するのは愚かしい。
→己の可能性を狭める。

同志

依怙鬲肩しない

好意だけでなく
貢献度も見る



info



造化（万物が自己を実現させようとする努力）の性質



「進歩/成長」という方向性

喜神/感謝/陰徳 逃げない/忘れる/楽しむ

1.意義・幸せ 2.家族・友達 3.夢を追う

尊厳/勇気/決断/献身 稚心/甘え/臆病/怠惰/無関心を去る

己の造化の道を延ばす

変化 発展

(中)

省く
除去

創る
連繫

潜蔵
統一
調和

(陰)
-

(陽)
+ 分化
発現



敬恥/感謝報恩

受容
包容

維持
守る

(中)

普遍 保つ

造化

